【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成23年7月21日(2011.7.21)

【公開番号】特開2010-106227(P2010-106227A)
【公開日】平成22年5月13日(2010.5.13)
【年通号数】公開・登録公報2010-019
【出願番号】特願2009-62447(P2009-62447)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｌ　11/00　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　23/28　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　67/00　(2006.01)
Ｃ０８Ｋ　 5/18　(2006.01)
Ｃ０８Ｊ　 3/24　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｌ　11/00
Ｃ０８Ｌ　23/28
Ｃ０８Ｌ　67/00
Ｃ０８Ｋ　 5/18
Ｃ０８Ｊ　 3/24　　ＣＥＱＺ

【手続補正書】
【提出日】平成23年5月26日(2011.5.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
得られた成形物について、次の各項目の測定および評価を行った。なお、接着性試験については、JIS K6256-2に準じた試験片が用いられた。
硬度：JIS K6253準拠；厚さ2mmのテストシートを3枚重ね合わせたものについて測定
耐熱性：JIS K6257準拠；120℃、70時間のオーブン加硫後の硬度変化(ポイント)を測定し、0～+10のものを○、+11～+15のものを△、+16以上のものを×と評価
耐寒性：JIS K6261準拠；TR-10値を測定し、-40℃以下のものを○、-39～-30℃のものを△、-29℃以上のものを×と評価
接着性：SPCC鋼板に、下塗り剤としてフェノール樹脂系接着剤(ロード・ファー・イースト社製品ケムロック205)を、また上塗り剤としてポリオレフィン系樹脂接着剤(同社製品ケムロック6108)をいずれも50％トルエン溶液として塗布し、自然乾燥した後、ゴム組成物を180℃、10MPa、5分間の条件で加熱加圧して加硫接着してJIS K6256-2に準じた試験片を作成後、剥離試験を行い、さらにペンチにより残留ゴムを剥離してゴム残率を算出し、ゴム残率が80～100％のものを○、60～79％のものを△、59％以下のものを×と評価
耐オゾン性：JIS K6259準拠；オゾン濃度50±5pphm、温度40℃、伸長率0～20％、伸長周波数0.5Hz、試験時間250時間の条件で動的オゾン試験を行い、試験片における亀裂の数と大きさの状態を表すランク付けが、C2より良であるものを○、C2より不良であるものを×と評価
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
実施例２～４、比較例１～３
実施例１において、配合成分としてのクロロプレンゴム量および塩素化ポリエチレンゴム量がそれぞれ変更された。なお、実施例４および比較例３では、塩素化ポリエチレンゴム(塩素化PE)として、東ソー製品CN1800(塩素含量10重量％)が用いられた。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２８】
実施例１～４、比較例１～３での測定および評価結果は、使用されたクロロプレンゴム量および塩素化ポリエチレンゴム量(単位：重量部)と共に、次の表１に示される。

表１

	比-1	実-1	実-2	実-3	比-2	実-4	比-3
〔配合成分〕							
クロロプレンゴム	100	95	90	85	70	90	70
塩素化PE(Cl含量40％)	－	5	10	15	30	－	－
〃 (Cl含量10％)	－	－	－	－	－	10	30
〔測定・評価結果〕							
硬度(デュロA)	52	52	52	51	50	50	50
耐熱性	○	○	○	○	○	○	○
耐寒性	○	○	○	△	×	○	×
接着性	×	○	○	○	○	○	○
耐オゾン性	○	○	○	○	○	○	○